

開催報告:「インパクト投資の今とこれから:実践例から今後を紐解く」

主催:インパクト志向金融宣言 協賛:ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社

後援:金融庁

2023年5月22日、インパクト志向金融宣言アセットオーナー・アセットマネジメント分科会の活動の一環として、実際にインパクト投資を行っている分科会メンバーによるポートフォリオにおける導入事例および未上場株式・上場株式を対象としたインパクト投資事例とそれぞれの課題の共有を通じ、インパクト投資の今後を考えるセッションを開催いたしました。当日はインパクト投資を行っている、または興味がある、計54名にご参加いただきました。

基調講演ではインパクト志向金融宣言アドバイザー、高崎経済大学 学長の水口教授より「インパクト・ファイナンスへの期待」と題し、今後人材・経験・IMMの高度化などを伴ったインパクト投資の発展への期待をお話いただきました。

次に、分科会メンバーであるティー・ロウ・プライスより、グローバル株式インパクト投資戦略ポートフォリオ・マネジャーであるハリ・バルクリシュナ氏より持続的成長目標の達成には現状の投資水準と3.7兆円のファンディング・ギャップがあり、上場企業の活動をインパクトの創出に向けることが重要であり、具体的な上場企業へのインパクト投資事例を共有いただきました。

次のパネルディスカッションでは、分科会共同座長を務める小野塚恵美氏をモデレーターに迎え、バルクリシュナ氏に加え、分科会メンバーであるかんぼ生命保険執行役員兼運用企画部長 野村裕之氏、第一生命保険株式会社 オルタナティブ投資部長 片岡正史氏よりそれぞれのインパクト投資の状況をご共有いただきました。

まずは、実際にどうやってインパクトと投資対象をリターンも含めて選んでいるか、そしてIMMIについて具体的な投資事例を用いてご説明いただきました。片岡氏より個別投資案件の審査とKPIのモニタリング、バルクリシュナ氏より投資前後に行うファンダメンタルズ分析とインパクト分析、投資後のインパクト・モニタリングのプロセスについて事例を用いて、そして野村氏より重点テーマに基づいたファンド選定事例とKPIの設定についてご紹介いただきました。

課題について、片岡氏より日本におけるインパクトテーマの発掘の難しさ、バルクリシュナ氏より上場企業における直接的なインパクト算出の難しさとスケールおよびアディショナリティといったメリットとのバランスについて、野村氏よりインベストメントチェーンの発展への貢献として最終受益者である個人顧客との対話への重要性についてお話をいただきました。

開催後のアンケートでは73%の参加者がインパクト測定・マネジメントのアプローチについて、39%が専門

人材の不足、といった点を課題として認識していることが明らかになりました。

アセットオーナー・アセットマネジメント分科会では今後も当事者間における課題やベストプラクティスの共有・発信を通じ、インパクト投資の発展に貢献してまいりたいと存じます。

(参考)インパクト投資にあたり感じている課題について

インパクト投資にあたり感じている課題 ※複数回答可	回収率
インパクト測定・マネジメントのアプローチが未発達	73%
専門人材不足	39%
投資先が少ない	27%
投資先の情報が不十分	18%
理解度が低い	18%
十分なリターンが得られるか不安	15%
インパクト投資先の発掘不足	12%
インパクト投資における投資手法が限定的	12%
インパクト投資に対する優遇措置	9%
エグジットの選択肢が少ない	9%
投資規模が小さく評価に結び付きにくい	6%
スタートアップ企業以外の投資選択肢が少ない	6%
コンサルタントなどから推奨がない	6%
受託者責任があり投資しにくい	3%
導入にあたり社内の理解が得られにくい	0%
その他	3%



以上